

HT 56 C

STIHL



2 - 31 取扱説明書



目次

1	はじめに.....	2
2	使用上の注意および作業方法.....	2
3	本機の使い方.....	8
4	運転準備.....	10
5	カッティングアタッチメント.....	11
6	バーとチェンの取り付け.....	11
7	チェンの張り.....	12
8	チェンの張り具合の点検.....	12
9	燃料.....	12
10	給油.....	13
11	チェン オイル.....	14
12	チェン オイルの給油.....	14
13	チェン オイルの吐出点検.....	16
14	ハーネスの取り付け.....	17
15	エンジンの始動と停止.....	17
16	機械の運搬.....	19
17	作業中の注意事項.....	19
18	ガイド バーの保守.....	20
19	エアフィルターの掃除.....	21
20	キャブレターの調整.....	21
21	スパーク プラグ.....	21
22	機械の保管.....	22
23	チェンスプロケットの点検と交換.....	23
24	ソーチェンの整備と目立て.....	23
25	整備表.....	27
26	磨耗の低減と損傷の回避.....	28
27	主要構成部品.....	29
28	技術仕様.....	29
29	整備と修理.....	30
30	廃棄.....	30
31	EC 適合証明書.....	30
32	アドレス.....	31

1 はじめに

1.1 シンボル マークについて

機械に表示されているシンボル マークの意味は、本取扱説明書に説明されています。

対象の機種によっては、以下のシンボル マークが機械に表示されている場合があります。



燃料タンク、ガソリンとエンジン オイルの混合燃料



チェンオイルタンク、チェン オイル



チェン回転方向



パージャーパーンプの操作

P パージャーパーンプ

1.2 段落の前に付いたシンボルや数字



警告

人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。

注記

本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

1.3 技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

このため、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

2 使用上の注意および作業方法



非常に鋭利で、遠くまで届くカッターの付いた高速切断パワーツールのため、高枝カッターの作業時には特別な安全に関する注意事項を順守してください。



初めて使用する前に取扱説明書をよく読んで理解してください。取扱説明書は、必要なときに参照できるように安全な場所に保管してください。取扱説明書の記載事項を順守しないと、重傷や致命傷さえ負うことがあります。

現地で適用される(事業主損害賠償保険協会、社会保険機関、労働安全局等が定める)安全規制にすべて従ってください。

本機を初めて使用する場合: STIHL サービス店または他の経験豊富なユーザーに機械の操作法を教わるか、専門的な研修に参加してください。

未成年者によるパワーツールの操作は許可されていません。ただし、監督者の指示の下で16歳以上の未成年者が作業を行う場合は例外です。

子ども、動物、見物人との間に安全な距離を確保してください。

機械を使用しないときは、他人に危険が及ばないように配慮して下に置いてください。機械が無断で使用されないよう対策を講じてください。

第三者やその所有物の事故やリスクを防止することは、使用者の責任です。

パワーツールを貸与したり、貸し付ける場合は、取扱説明書を一緒に手渡ししてください。本機の使用が取扱説明書の記載事項に精通していることを確認してください。

騒音を発する機械の使用が、国、地域、現地の規則によって一日の特定の時間帯に制限されている場合があります。

機械の使用者は十分に休息を取り、身体的・精神的に健康な状態でなければなりません。

激しい労働に耐えられない体調の方は、かかりつけ医に相談してから機械を使用してください。

ベースメーカー着用者向けの注意点：本機のイグニッションシステムは微弱な電磁界を発生します。その電磁界がベースメーカーに干渉する場合があります。健康上のリスクを最小限に抑えるために、STIHL 社ではベースメーカー着用者にかかりつけ医やベースメーカー製造業者に相談されることをお勧めしています。

動作を鈍らせるようなアルコールや薬物を服用した状態では、本機を使用しないでください。

高枝カッターは、枝払い（枝の切断や刈り込み）専用です。木材や木製の物体の切断以外には使用しないでください。

本機は他の目的に使用しないでください。**ケガをする危険があります！**

STIHL 社が本パワーツールへの使用を明確に承認したが、仕様が同等のガイドバー、ソーチェン、チェンスプロケット、アクセサリのみを装着してください。ご不明な点は、サービス店にお問い合わせください。高品質の部品とアクセサリだけをご使用ください。この指示に従わないと、事故だけでなく、パワーツールの損傷も生じるおそれがあります。

STIHL 社では、STIHL 純正のツール、ガイドバー、ソーチェン、チェンスプロケット、アクセサリの使用をお勧めしています。そうした純正部品は製品に適合し、お客様の性能要件を満たすように特別に設計されています。

いかなる方法であれ、絶対に本パワーツールを改造しないでください。負傷する危険が高まるおそれがあります。STIHL 社は、承認されていないアタッチメントを使用した際のケガや物的損害に対して一切法的責任を負いません。

本パワーツールの清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強力な水の噴流が、本機の部品を損傷するおそれがあります。

2.1 衣服と装備

適切な防護服と装備を身に付けてください。



丈夫な素材で、身体の動きを一切制限しない衣服を着用してください。ゆったりとした上着ではなく、つなぎ服等の身体にぴったりフィットする衣服を着用してください。

木々、茂み、機械の可動部品に絡まるおそれがある衣服は着用しないでください。スカーフ、ネクタイ、装身具は身に付けしないでください。長髪は結び、肩よりも高い位置でまとめてください。



靴底が滑らない、爪先に鋼板の入った安全靴を履いてください。



警告



目を負傷する危険を低減するために、European Standard (欧州基準) EN 166 に準拠した、確実にフィットする保護メガネを着用してください。保護メガネが適切にフィットしていることを確認してください。

「個人」用のイヤープロテクター（例えばイヤーマフ）を着用してください。

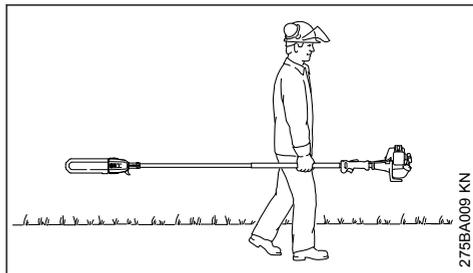
落下物で頭部を負傷する危険がある場合は、安全ヘルメットを着用してください。



耐性素材（革など）でできた、丈夫な保護手袋を着用してください。

STIHL 社では、さまざまな防護装備を取り揃えております。

2.2 機械の運搬



必ずエンジンを切ってください。

たとえ短距離であっても、機械を持ち運ぶときは常にチェンガード（鞘）を装着してください。

常にパワーツールのバランスを保ち、シャフトを保持して運搬してください。機械の高温になっている部分、特にマフラーには触れないでください。火傷をするおそれがあります！

車両輸送：転倒、損傷、燃料漏れを防ぐために機械を適切に固定してください。

2.3 給油



ガソリンは可燃性が極めて高い液体です - 火気を近づけないでください。燃料をこぼさないでください。喫煙しないでください。

必ずエンジンを切ってから給油してください。

エンジンが高温のときは給油しないでください - **燃料がこぼれ、火災が生じる危険があります。**

燃料キャップは、タンク内の圧力がゆっくりと抜け、燃料の吹き出しが生じないように慎重に開けてください。

必ず換気の良い場所で給油してください。燃料がこぼれたときは、直ちに機械を清掃してください - 燃料が衣服にはね飛ばないように注意してください。燃料が衣服に付着したときは、速やかに着替えてください。



給油後は、スクリュー式燃料キャップをできるだけしっかりと閉めてください。

確実に閉めると、燃料タンクキャップがエンジンの振動によって緩むか外れ、大量の燃料が漏れ出す危険が低減されます。

漏れの有無を確認します。燃料が漏れている場合はエンジンを始動しないでください - **重度の火傷または致命的な火傷を負うおそれがあります！**

2.4 作業開始前

パワーツールが適切に組み立てられ、正常な状態になっているか点検します。本取扱説明書の関連する章を参照してください。

- 燃料システム、特に燃料タンクキャップ、ホースコネクター、手動燃料ポンプ(手動燃料ポンプ付きの機械のみ)等の目視が可能な部品が漏れていないか点検します。漏れや損傷が生じている場合は、エンジンを始動しないでください。**火災が起きる危険があります！** サービス店で機械を修理してから再使用してください。
- ガイドバーが正しく装着されているか確認します。
- ソーチェーンが適切に張られているか確認します。
- スライドコントロール/停止スイッチは、容易にSTOPまたは0位置に移動できなければなりません。
- スロットルトリガーロックアウト(装着されている場合)とスロットルトリガーは、スムーズに作動しなければなりません。スロットルト

リガーは、自動的にアイドル位置に戻る必要があります

- スパークプラグターミナルがしっかりと差し込まれているか点検します。緩んでいる場合は火花が発生し、可燃性のガスに引火し、**火災が発生するおそれがあります！**
- 操作部や安全装置は絶対に改造しないでください。
- ハンドルは乾いた清潔な状態(オイルや汚れが付着していない状態)に保ちます。この点は、機械を安全に操作するために重要です。
- ハーネスを自分の身長や手の長さに合うように調整します。「ハーネスの取り付け」の項を参照してください。

パワーツールは正常な作動状態のときだけ使用してください。**事故が生じる危険があります！**

ハーネスを使用する場合は、非常時に備えて、迅速にハーネスを外すか、機械を外して地面に降ろす練習をしてください。この練習中は、本機を地面に投げ下ろして損傷させないように注意してください。

2.5 エンジンの始動

給油場所から3m以上離れた場所でエンジンを始動します。屋外に限ります。

パワーツールを屋外の水平面に置きます。バランスと安定した足場を確保してください。パワーツールを確実に保持します。エンジン始動時に作動するおそれがあるため、チェーンを地面や他の障害物に接触させないでください。

本パワーツールは、一人で操作するように設計されています。エンジンの始動時でさえも、半径15m以内には第三者を立ち入らせないでください。**ケガをする危険があります！**

エンジンは取扱説明書に従って始動してください。

スロットルトリガーを放しても、ソーチェーンはしばらく作動し続けます。**フライホイール効果！**

エンジンのアイドルリング回転数を確認します。スロットルトリガーを放した、エンジンのアイドルリング回転時には、チェーンは停止しなければなりません。

燃えやすい物(木屑、樹皮、枯れ草、燃料など)を高温の排気ガスや高温のマフラー表面に近づけないでください。近づけると、**火災が発生する危険があります！**

2.6 ツールの保持と操作



常にパワーツールを両手でしっかりと保持してください。右手でコントロールハンドルを握り、左手でドライブチューブを握ります。左利きの使用者も同様です。コントロールハンドルとシャフトに親指を掛けて確実に握ってください。

テレスコープシャフト付きの機械では、テレスコープシャフトを作業高を超えて伸ばさないでください。

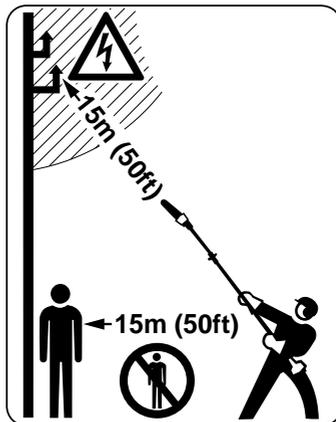
2.7 作業時

足場が常に安全で安定しているか確認します。

危険が差し迫っている場合や緊急時は、速やかにエンジンを切ります。スライドコントロール/停止スイッチを **STOP** または **0** の位置に動かしてください。



このパワーツールには、絶縁機能は搭載されていません。電線から 15 m 以内の範囲には立ち入らないでください。**感電死する危険があります！**



枝が落下したり、木片が飛散したりするおそれがあるため、作業位置の半径 15 m 以内には第三者を立ち入らせないでください。**ケガをする危険があります！**

この距離は、物体 (車両、窓ガラスなど) に対しても維持する必要があります。**物的損害が生じる危険があります！**

バーノースを電線から 15 m 以上離してください。それよりも距離が離れていても、高圧ケーブルから電流が放電することがあります。電線の付近で切断作業を行うときは、電線を非通電状態にしてから作業を開始してください。

ケガをする危険を低減するために、必ずエンジンを切ってからソーチンを交換してください！

エンジンのアイドル回転数が適正か確認します。スロットルトリガーを放した状態では、ソーチンが動いてはなりません。

ソーチンが停止しない場合は、サービス店に修理を依頼してください。定期的にアイドル回転数の設定を点検し、修正してください。

作動させたまま絶対に本機から離れないでください。

滑りやすい場所 (例えば濡れた面、雪や氷で覆われた面、斜面、凹凸のある地面) では、特に注意してください。

樹木の切り株や根等の障害物に注意してください。**つまづく危険があります！**

2.7.1 高所で作業する場合：

- 常にリフトバケットから作業します。
- はしごや樹木に乗った状態では、絶対に本機を使用しないでください
- 不安定な面では絶対に作業しないでください。
- 本機は絶対に片手で使用しないでください

イヤープロテクターを着用している場合は、危険を告げる声(叫び声、警笛等)が聞こえにくくなるため、通常よりもさらに注意が必要です。

疲労を感じたときは休憩を取ってください。そうしないと**事故が起こるおそれがあります!**

冷静かつ慎重に作業を行ってください。日中の視界が十分なき以外は作業を行わないでください。慎重に作業を進め、他者に危険が及ばないよう配慮してください。



エンジンが始動するとすぐに、パワーツールから有毒な排気ガスが発生します。排気ガスは無臭で目に見えない場合があり、未燃焼の炭化水素とベンゼンが含まれているおそれがあります。屋内や換気状態の悪い場所では、絶対にエンジンをかけないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

有毒ガスを吸い込んで重症または致命傷を負う危険を低減するために、溝、くぼ地、他の狭い場所での作業時は、適切に換気してください。

吐き気、頭痛、視覚障害(視野狭窄等)、聴覚障害、めまい、注意散漫が生じた場合は、直ちに作業を中止してください。濃度が非常に高い排気ガスを吸い込むと、そうした症状が現れる場合があります。**事故が生じるおそれがあります!**

機械は、騒音と排気ガスの発生が最小限になるように操作してください。エンジンを不必要にふかさず、作業時のみエンジンを加速してください。

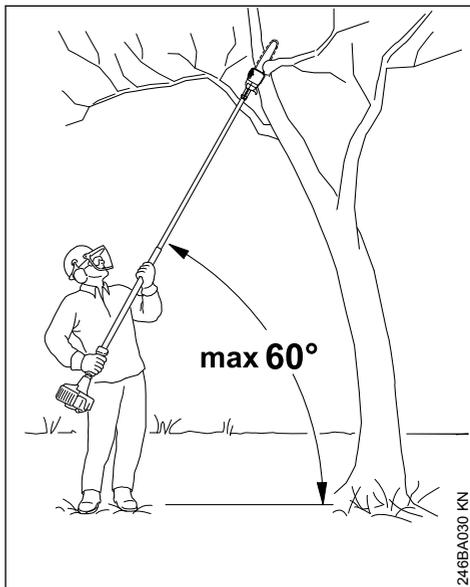
火災の危険を低減するために、作業中や機械の付近では**喫煙は避けてください**。燃料システムから可燃性の気化燃料が漏れ出すおそれがあります。

本機の使用時に発生する粉塵(おがくずなど)、気化ガス、煙は健康を害するおそれがあります。粉塵が発生する場所では、防塵マスクを着用してください。

パワーツールに設計強度を超える異常な負荷が加わった(強い衝撃が加わるか、落下した)場合、必ずパワーツールが正常かどうか点検してから作業を続けてください(「作業開始前」も参照)。特に燃料システムが漏れていないか点検し、安全装置が完全に作動しているか確認してください。安全に操作できなくなったパワーツールは、絶対に使用しないでください。ご不明な場合は、販売店にお問い合わせください。

ハーネス使用時は、排ガス流が身体に当たらないよう注意してください。**火災が生じるおそれがあります!**

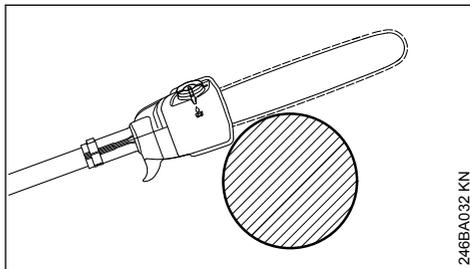
2.7.2 枝払い



パワーツールを傾けて保持します。切断する枝の真下には立たないでください。水平面から60°の角度を超えないでください。落下する樹木に注意してください。

作業場所を片付け、作業の邪魔になる大枝や茂みを取り除いてください。

枝払い前に退避路を確保し、障害物を完全にに取り除きます。



ハウジングを枝に当て、垂直切りを入れます。それにより、切断を開始したときにパワーツールが揺れずに済みます。

フルスロットルにして、切断作業を開始します。常に適切に目立てをした、張りりが正常なソーチェーンを使用して切断を行います。テブスゲージの設定が適正かどうか確認してください。

始動スロットル位置でパワーツールを操作しないでください。この位置ではエンジン回転を制御できません。

チェーンが挟まれないよう、上側から下向きに垂直切りします。

太い枝や重量のある枝の場合は、負荷軽減カットを入れます。「高枝カッターの使用」の項を参照してください。

張力がかかっている枝の切断時は特に注意してください。**ケガをするおそれがあります！**常に、まず圧縮がかかっている側に負荷軽減カットを入れ、次に張力がかかっている側を玉切りします。

裂けた樹木の切断時は注意してください。**木片が飛散してケガをするおそれがあります！**

斜面で作業を行うときは、必ず高い側に立つか、切断する幹の側面に立ってください。転がる幹に注意してください。

切断し終わると、パワーツールは切り口の中でガイドバーによって支持されなくなります。作業者が機械の重量を支える必要があります。**制御できなくなる危険があります！**

必ずソーチェンを回転させたままパワーツールを切り口から引き出してください。

本パワーツールは枝払いや剪定専用であり、伐倒用ではありません。**事故が起きるおそれがあります！**

ソーチェンは異物から離れた位置で使用してください。石や釘等が飛散し、ソーチェンが損傷するおそれがあります。

回転中のソーチェンが石や他の硬い物体に当たると、火花が発生し、特定の条件下では燃えやすい物質が引火するおそれがあります。特に乾燥した高温の気候下では、枯れた植物や茂みも引火します。火災の危険がある場合は、燃えやすい物質、乾燥した植物や雑木の近くでパワーツールを使用しないでください。火災が生じる危険性の最新情報に関して、必ず管轄森林管理事務所にお問い合わせください。

機械から離れる前に、必ずエンジンを切ってください。

2.8 振動

チェーンソーを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります（「白ろう病」）。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。常に各国の安全規制、基準、条例をお守りください。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

- 手の防護(暖かい手袋)
- 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします：

- 血行不良の特殊体質(症状：指が頻繁に冷たくなる、指が疼く)。
- 低い外気温。
- ハンドルを握む力の強さ(握む力が強いと血行が低下します)。

機械を日常的に長時間使用したり、該当する症状(指のしびれ等)が繰り返し発症する時は、医師による診断をお薦めします。上記のいずれかの症状が現れたら(指が疼くなど)、医師にご相談ください。

2.9 整備と修理

定期的にも機械を整備してください。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業はスチール サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店にのみ依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。これに関して不明な点がある場合は、スチール サービス店へお問い合わせください。

当社ではスチール純正交換部品のご使用をお勧めします。これらは、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

ケガの危険を回避するために、本機の保守、修理、または掃除を実行する前に、**エンジンを必ず切ってください**。- 例外: キャブレターおよびアイドリング回転数の調整時は例外です。

スパークプラグターミナルまたはスパークプラグを外した状態でスターターを操作する場合は、スライドコントロール/ストップスイッチを**STOP**または**0**の位置にしてください。火花が飛んで**火災を起こす危険**があります。

火災の危険性を回避するため、火気の近くで修理したり、保管したりしないでください。

燃料フィルター キャップにもれがないか定期的に点検してください。

当社で承認されたタイプで、支障なく作動するスパークプラグだけを使用してください（「技術仕様」の項を参照）。

イグニッション ケーブルに異常がないこと(良好な絶縁状態、接続の確実性)を確認してください。マフラーに異常が無いことを確認してください。

火災の危険や聴覚障害を避けるために、破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま作業しないでください。

高温のマフラーに触れて、火傷しないようにしてください。

エンジン停止

- チェンの張りを点検するとき。
- チェンの張りを再調整するとき。
- チェンを交換するとき。
- 問題に対処するとき。

目立てに関する注意事項を守ってください - 安全に正しく扱うため、チェンとガイドバーを常によい状態に保ってください。チェンは正しく目立てをして張りを調整し、十分に潤滑する必要があります。

チェン、ガイドバーおよびスプロケットは、常に余裕を持って取り替えてください。

燃料とチェンオイルの保管には、ラベルの付いた安全な容器のみを使用してください。ガソリンを取り扱うとき、直接肌に触れたり、ガソリン蒸気を吸い込まないようにしてください - **健康上のリスクがあります。**

3 本機の使い方

3.1 準備

- ▶ 適切な保護服を着用し、安全上の注意事項を順守します。
- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ ハーネスを取り付けます。

3.2 切断順序

幹が自然に落下するよう、必ず下側の幹から先に切断します。重たい(径の大きい)幹は、数力所を切断して扱いやすい長さに分割します。

警告

切断中の幹の真下には絶対に立たないでください。落下する幹に注意してください。枝が地面に当たって跳ね返り、作業者に当たるおそれがあります。ケガをする危険があります。

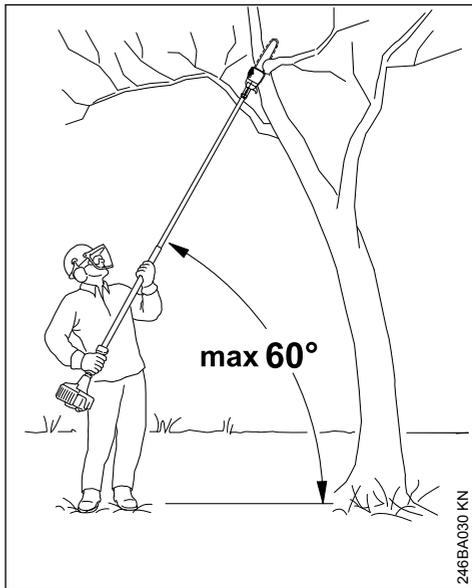
3.3 廃棄

堆肥にすることができるため、切り屑は廃棄物として処分しないでください。

3.4 作業方法

右手でコントロールハンドルを握り、左手でシャフトを握ります。左手は最も快適な位置まで伸ばしてください。

常にハンドルホース部分を左手で握り、シャフトを保持してください。

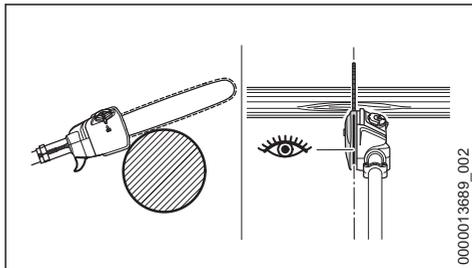


シャフトは常に 60°以下の角度で保持してください。

ツールを 60°の角度に合わせると、最も疲れにくくなります。

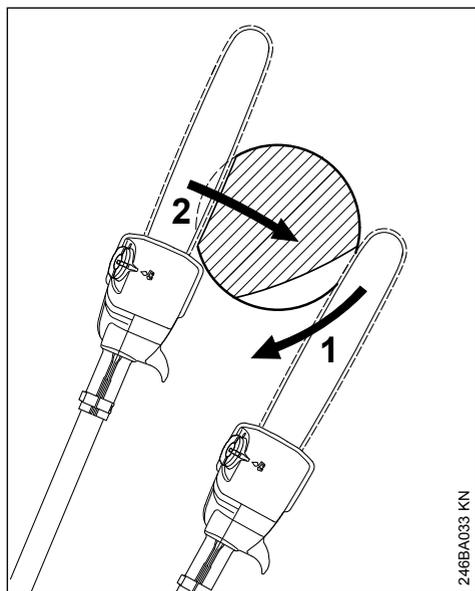
状況に応じてそれによりも浅い角度に合わせることができま。

3.4.1 垂直切り



チェンが切り口に挟まれないよう、ハウジング部分のバーを枝に当て、上側から下向きに垂直切ります。ガイドバーを使用してソーチェンを正確に位置決めすることができます。

3.4.2 負荷軽減カット

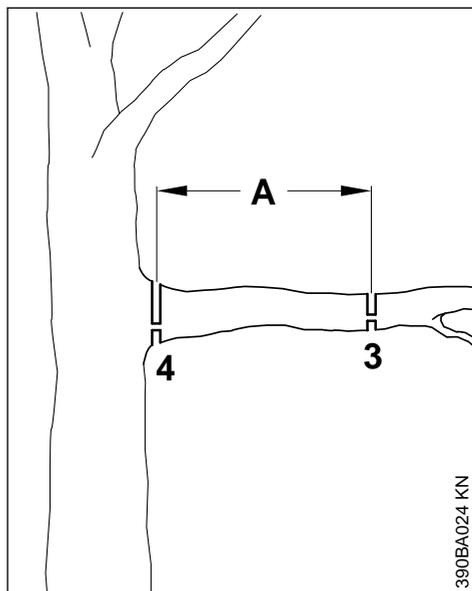


246BA033 KN

太い幹の樹皮が裂けないよう、必ず

- ▶ 枝の下側から負荷軽減カット (1) を入れます。そのためには、カッティングアタッチメントを位置決めし、バーノーズが弧を描くように下向きに導きます。
- ▶ 垂直切り (2) を行います。ハウジング部分のバーを枝に位置決めします。

3.4.3 太い枝のフラッシュカット

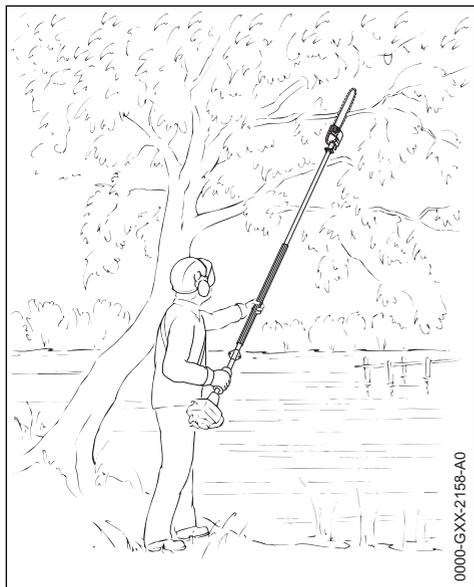


390BA024 KN

幹の径が 10 cm (4 in) 以上の場合

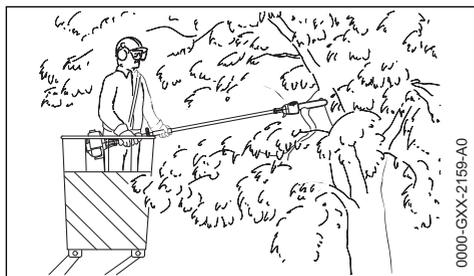
- ▶ 最終的な切断位置から約 20 cm/8 in の切断位置 (A) でまずアンダーカット (3) を行い、次に垂直切りを行います。次に負荷軽減カットを入れてフラッシュカット (4) を行い、垂直切りで切り落とします。

3.4.4 障害物上での切断



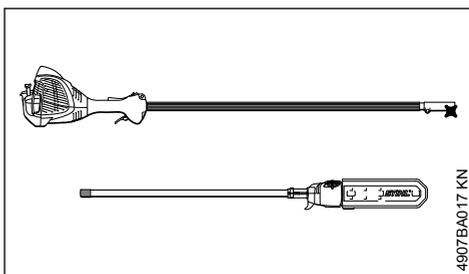
本機のロングリーチ機能を利用して、河川や湖といった障害物に覆いかぶさる幹を剪定することが可能です。そうした剪定時のツールの角度は、枝の位置によって決まります。

3.4.5 リフトバケットを使用した切断



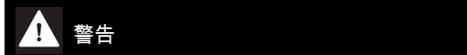
本機のロングリーチ機能を利用すると、リフトバケットで他の幹を損傷させるおそれなしに幹の隣接部を切断することができます。そうした剪定時のツールの角度は、枝の位置によって決まります。

4 運転準備

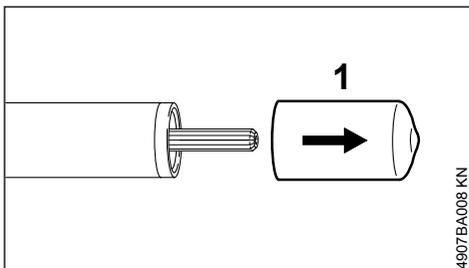


この機械にはスプリットドライブチューブが搭載されており、輸送時のスペースを最小限に抑えることができます。「ユニットは輸送時に分解することができます。」「パワーツールの輸送」を参照してください。

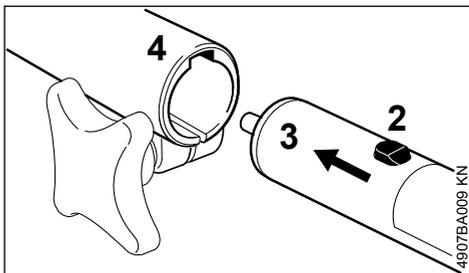
4.1 ドライブチューブの接続



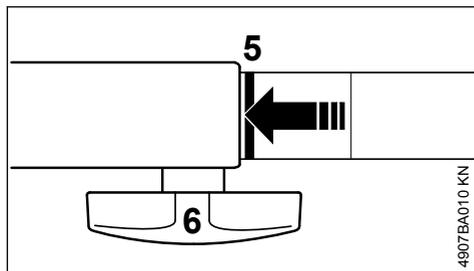
コンビツールを取り付けしないでください。機械に同梱されたスプラインシャフト付きドライブチューブのみを使用してください。



- ▶ フロントドライブチューブの端からキャップ (1) を取り外し、後の使用に備えて安全な場所に保管してください。「機械の保管」を参照してください。
- ▶ パワーヘッドをマシンサポートに載せるように地面に置きます。



- ▶ フロントドライブチューブ (3) の突起 (2) をカップリングスリーブのスロット (4) に止まるまで差し込みます。必要に応じてフロントドライブチューブ (3) を押し込みながら前後に回転させてください。



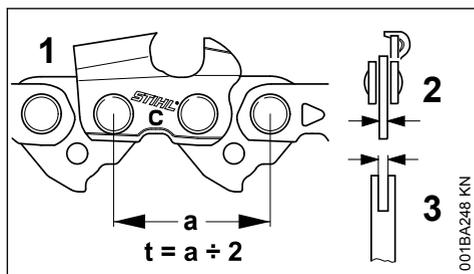
適切に取り付けられると、赤線 (5) (矢印で示した部分) がカップリングスリーブの端と面一になります。

- ▶ ウィングスクリュー (6) を確実に締め付けます。
- ▶ ショルダーストラップを吊り下げ用リングに取り付けます。

5 カutting アタッチメント

カutting アタッチメントは、ソーチェン、ガイドバー、チェン sprocket で構成されています。

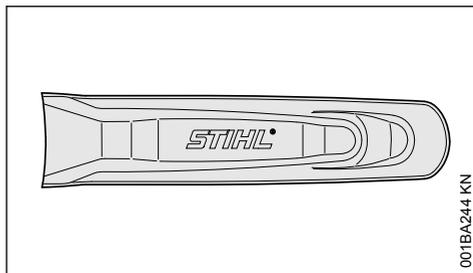
標準仕様のカutting アタッチメントは高枝カッターに合致するように設計されています。



- ソーチェン (1) のピッチ (t) を、チェン sprocket やロー-ロマチックガイドバーのノーズ sprocket のピッチと適合させてください。
- ソーチェン (1) のドライブリンクゲージ (2) はガイドバー (3) の溝幅と一致させてください。

適合しないコンポーネントを使用すると、カutting アタッチメントは短時間使用ただけで修理不可能なほどに破損してしまうことがあります。

5.1 チェンガード



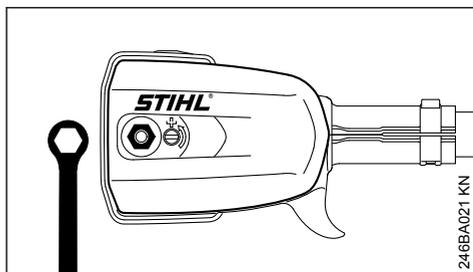
カutting アタッチメントに適合するバー鞘が含まれています。

異なる長さのガイドバーが高枝カッターに取り付けられている場合、常に正しい長さのチェンガードを使用してガイドバーを完全に覆うようにする必要があります。

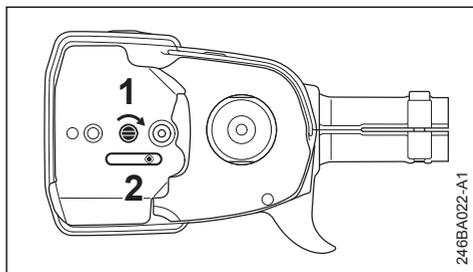
適合するガイドバーの長さは、チェンガードの側面にマークされています。

6 バーとチェンの取り付け

6.1 チェン sprocket カバーの取り外し

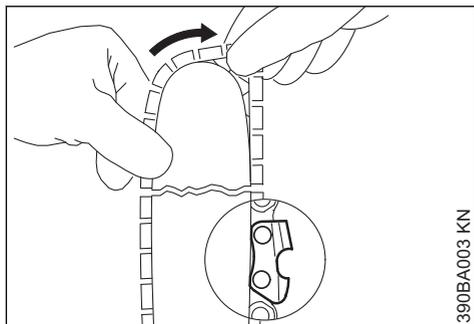


- ▶ ナットを緩め、チェン sprocket カバーを取り外します。



- ▶ テンショナースライド (2) がハウジングスロットの右端に当たるまでスクリュー (1) を時計回りにまわします。

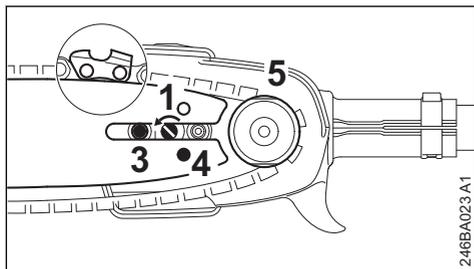
6.2 ソーチェンの取り付け



警告

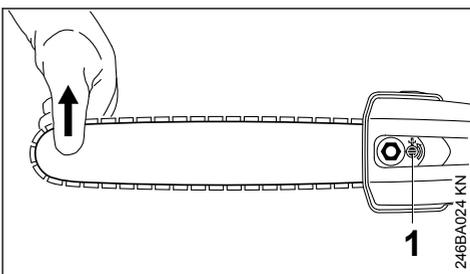
鋭利なカッターから手を保護するために作業用手袋を着用してください。

- ▶ ソーチェンをバーノーズ(前端)側から取り付けます。



- ▶ ガイドバーをスクリュー (3) に取り付け、テンショナーライドのベグを穴 (4) にはめ込みます。同時にソーチェンをチェンスプロケット□(5) に掛けます。
- ▶ バー下側のチェンのたるみがほとんどなくなるまで、テンショニングスクリュー (1) を反時計回りにまわします。ドライリンクタンクがガイドバーの溝にかみ合います。
- ▶ チェンスプロケットカバーを元通りに取り付け、ナットを手で締め付けます
- ▶ 「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

7 チェンの張り



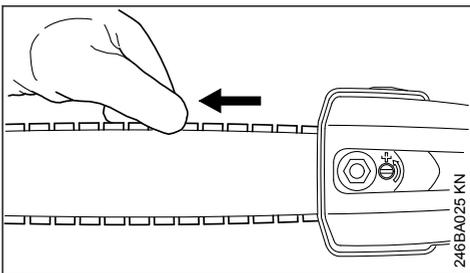
切断作業の合間に再調整する場合：

- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ ナットを緩めます。
- ▶ バーの先端を上に向けて保持します。
- ▶ スクリュー ドライバーでテンショニング スクリュー (1) を反時計回りに回し、チェンがバーの下側に軽く触れるまでチェンを張ります。
- ▶ バーの先端を持ち上げたまま、ナットをしっかりと締めます。
- ▶ 「チェンの張り具合の点検」に進みます。

新品のチェンは、しばらく使用したもののよりも頻繁に張りを調整する必要があります。

- ▶ チェンの張り具合を頻繁に点検してください - 「作業中の注意事項」の章を参照してください。

8 チェンの張り具合の点検



- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ 作業用手袋を着用して手を保護してください。
- ▶ チェンは、バーの下側に軽く触れ、手でバーに沿って引くことができるくらいに張ります。
- ▶ 必要ならば、チェンを張りなおしてください。

新品のチェンは、しばらく使用したもののよりも頻繁に張りを調整する必要があります。

- ▶ チェンの張り具合を頻繁に点検してください - 「作業中の注意事項」の章を参照してください。

9 燃料

エンジンには、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料が必要です。



警告

燃料に直接触れたり、ガソリンの気化ガスを吸い込んだりしないよう注意してください。

9.1 STIHL MotoMix (モトミックス)

STIHL 社では、STIHL MotoMix の使用をお勧めしています。このあらかじめ混合された燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン価を特徴とし、常に適切な混合比をもたらします。

STIHL MotoMix には、エンジン寿命を最長化するために STIHL HP Ultra 2 ストロークエンジンオイルが使用されています。

MotoMix は、販売されていない市場もあります。

9.2 燃料の混合

注記

仕様と異なる不適切な燃料や混合比を用いると、エンジンに重度の損傷が生じるおそれがあります。低品質のガソリンやエンジンオイルは、エンジン、ガスケット、燃料ライン、燃料タンクを損傷させることがあります。

9.2.1 ガソリン

オクタン価が 90 以上の高品質ガソリンだけを使用してください。無鉛、有鉛は問いません。

アルコール濃度が 10% を超えるガソリンは、手動調整可能キャブレター付きエンジンではエンジン性能を低下させるおそれがあるため、そうしたエンジンには使用しないでください。

M-Tronic 搭載エンジンは、アルコール濃度が 27% までのガソリン(E27)を使用して本来の性能を発揮します。

9.2.2 エンジンオイル

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 2 ストロークエンジンオイルまたは JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC あるいは ISO-L-EGD に準拠する他の高性能エンジンオイルを使用してください。

機械が寿命に達するまでの全期間で排ガス基準が満たされるよう、STIHL 社では STIHL HP Ultra(ウルトラ)2 ストロークエンジンオイルまたは同等の高性能エンジンオイルの使用を指定しています。

9.2.3 混合比率

1:50 の比率で STIHL 2 ストロークエンジン オイルとガソリンを混合してください(オイル 1 に対してガソリン 50)。

9.2.4 例

ガソリン量	STIHL 2 ストロークエンジンオイル 1:50
リットル	リットル (ml)
1	0.02 (20)
5	0.10 (100)
10	0.20 (200)
15	0.30 (300)
20	0.40 (400)
25	0.50 (500)

▶ 承認されている安全な燃料容器にオイルを注入してからガソリンを加え、完全に混ぜ合わせます。

9.3 混合燃料の保管

燃料は承認されている安全な燃料容器に入れ、乾燥して涼しく、安全な、照明や太陽光から保護された場所に保管します。

混合燃料は時の経過に伴って劣化します - 数週間分の必要量だけを混合してください。混合燃料は 30 日以上保管しないでください。照明、太陽光、低温、高温にさらすと、混合燃料はより短時間で使用できなくなることがあります。

STIHL MotoMix は、問題なく最長 5 年間保管することができます。

▶ 混合燃料が入った容器(携行缶)をよく振ってから給油してください。



警告

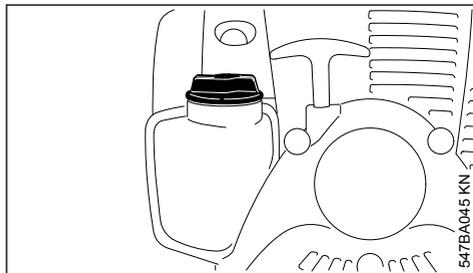
携行缶の内圧が高まっている可能性があるため、キャップは慎重に開けてください。

▶ 混合燃料を保管する燃料タンクや容器は、ときどき徹底的に清掃してください。

残存する燃料や清掃に使用した液体は、規制に従って環境に害を及ぼさないように廃棄してください!

10 給油

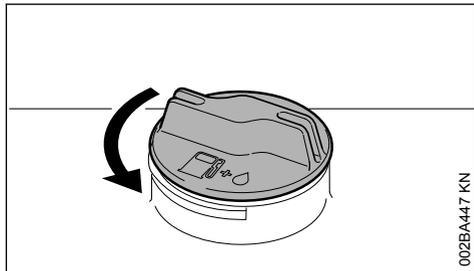
10.1 準備



▶ 給油する前に、汚れがタンクの中に入るのを防ぐため、タンクキャップとその周りをきれいにしてください。

- ▶ タンクキャップが上を向くように機械を置きます。

10.2 スクリュータイプのタンク キャップを開ける



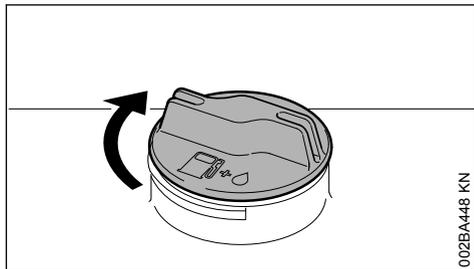
002BA447 KN

- ▶ キャップを反時計回りに、キャップをタンクの開口部から外すことができるまで回します。
- ▶ キャップを外します。

10.3 燃料の補填

給油の際には燃料をこぼしたり、あふれさせないでください。当社ではスチール フィラー ノズル (特殊アクセサリー) の使用をお勧めします。

10.4 スクリュータイプのタンク キャップを閉める



002BA448 KN

- ▶ 開口部にキャップを置きます。
- ▶ キャップを時計回りに、止まるまで回します。手でできる限りしっかりと締め付けます。

11 チェン オイル

チェンとガイドバーの自動的で信頼性のある潤滑のため、環境に優しい高品質チェンオイルだけを使用してください。生分解が速いスチールパイオプラスをお勧めします。

注記

生分解性チェンオイルには、十分な耐劣化性がが必要です (スチールパイオプラス等)。耐劣化性に乏しいオイルは、樹脂化が速い傾向にあります。その結果、特にチェン駆動部やチェンに蓄積物が固着し、除去しにくくなります。オイルポンプが故障する原因ともなります。

使用するオイルの品質は、ソーチェンとガイドバーの寿命に大きく影響します。従って、必ず専用のチェンオイルだけを使用してください。

警告

廃油を使用しないでください!廃油は、長期間繰り返し肌に触れると、皮膚ガンを引き起こすことがあります。さらに、環境に害を与えることがあります!

注記

廃油には必要な潤滑特性がなく、チェンの潤滑には適していません。

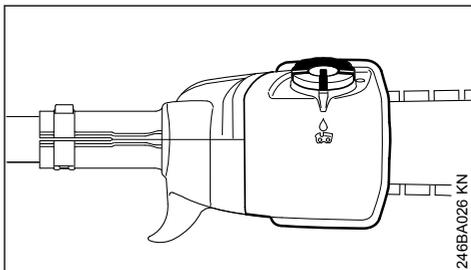
12 チェン オイルの給油



注記

チェンオイルタンクを満タンにしても、燃料タンクの燃料が半分消費されるとオイルがなくなります。鋸断作業中は、定期的にオイル量を点検してください。絶対にオイルタンクは空にしないでください。

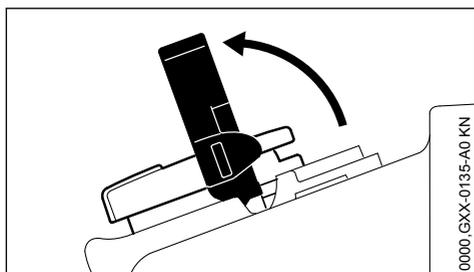
12.1 準備



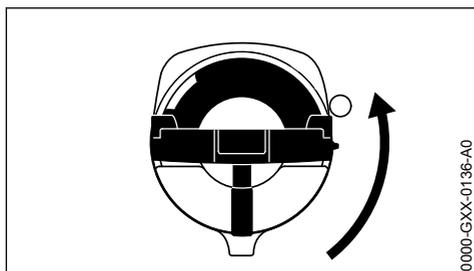
246BA026 KN

- ▶ タンクに汚れが混入しないよう、タンクキャップとその周辺を入念に清掃します。
- ▶ タンクキャップが上を向くように本機を置きます。

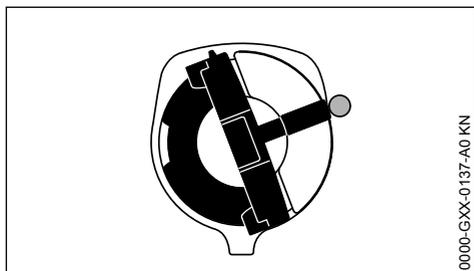
12.2 キャップの開け方



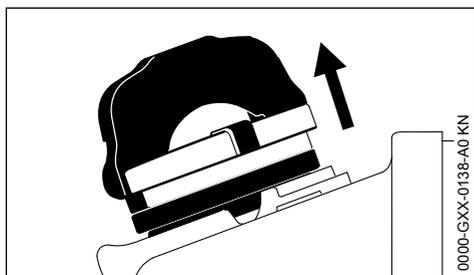
- ▶ グリップを垂直位置まで起こします。



- ▶ キャップを反時計回りに回します (約 1/4 回転)。



タンクキャップとオイルタンクのマークを合わせてください。



- ▶ タンクキャップを取り外します。

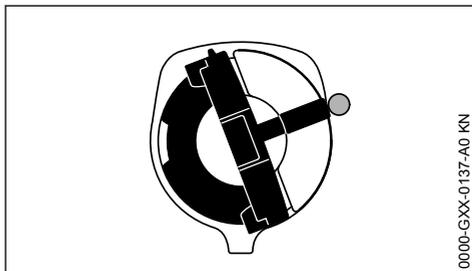
12.3 チェンオイルの給油

- ▶ タンクをチェーンオイルで満たします。

給油時はチェーンオイルをこぼさないよう注意し、チェーンオイルをタンクに入れ過ぎないでください。

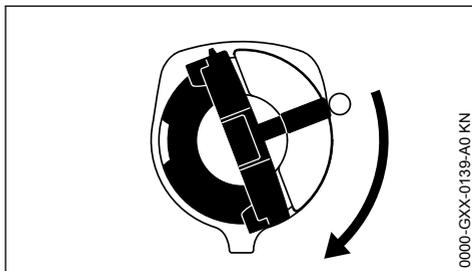
STIHL 社ではチェーンオイル用 STIHL フィラーノズル (特殊アクセサリ) の使用をお勧めしています。

12.4 キャップの閉め方

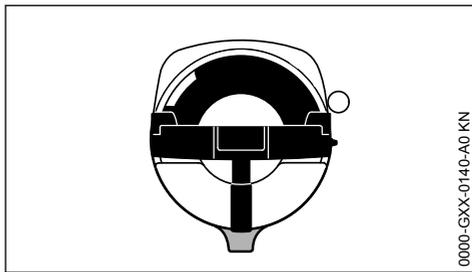


グリップを垂直位置に合わせます :

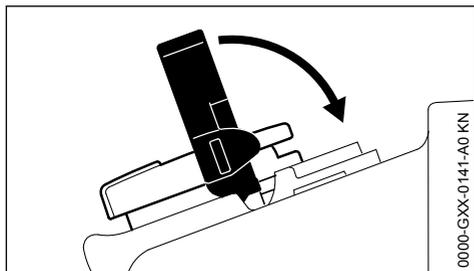
- ▶ キャップを取り付けます - タンクキャップとオイルタンクのマークを合わせてください。
- ▶ キャップを止まるまで押し下げます。



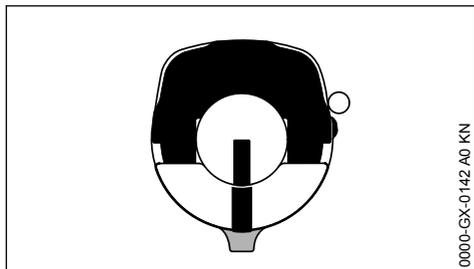
- ▶ キャップを押し下げたまま時計回りに回し、所定の位置にはめ込みます。



キャップとオイルタンクのマークが合います。



▶ グリップを倒します。



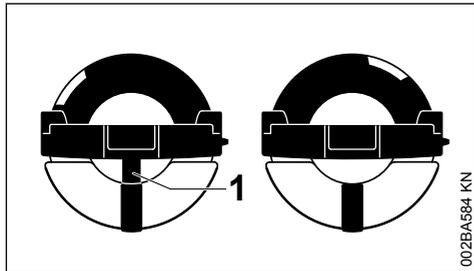
タンクキャップがロックされます。

タンク内のオイル量が減らない場合は、オイル供給システムが故障している可能性があります：チェーンの潤滑状況を点検し、オイル通路を清掃し、必要に応じてサービス店にお問い合わせください。STIHL 社では、認定を受けた STIHL サービス店のみに整備や修理を依頼されることをお勧めしています。

12.5 タンクキャップをオイルタンクの開口部にロックできない場合

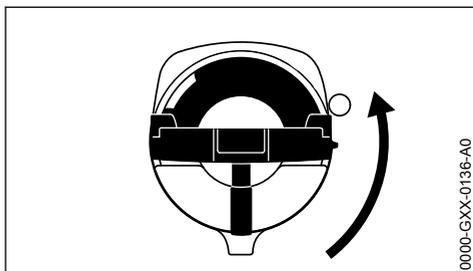
キャップ下部が上部に対してねじれています。

▶ オイルタンクからキャップを外し、上から目視して点検します。



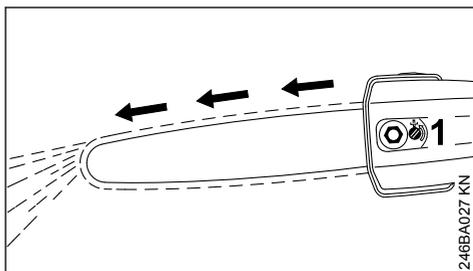
左側： キャップ下部がねじれています - 内側マーク (1) が外側マークに合っています。

右側： 適切な位置のキャップ下部 - 内側マークがグリップの下側にあります。外側マークとは合っていません。



- ▶ キャップを開口部に取り付け、フィルナーネックにかみ合うまで反時計回りに回します。
- ▶ キャップをさらに反時計回りに回します (約 1/4 回転) - キャップ下部が正しい位置に合います。
- ▶ キャップを時計回りに回し、所定位置にロックします - 「キャップの閉め方」の項を参照。

13 チェン オイルの吐出点検



ソーチェーンは常に多少のオイルを飛散しています。

注記

本機は、潤滑油なしで操作してはいけません。チェーンを乾いたまま回転させると、カッティングアタッチメント全体がすぐに損傷して、修理不能になります。作業を始める前に、常にチェーンの潤滑状態とタンク内のオイル量を点検してください。

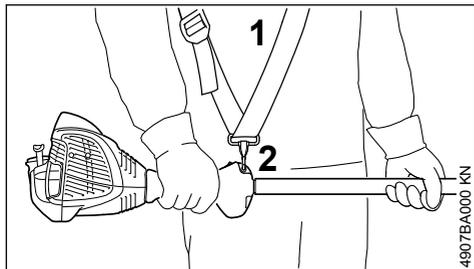
新品のチェーンは 2 ~ 3 分間ならし運転をしてください。

チェーンのならし運転を行った後、チェーンの張り具合を点検し、必要な場合は再調整してください。「チェーンの張り具合の点検」の項を参照してください。

14 ハーネスの取付け

市場によって、肩掛けベルトのタイプとスタイルが異なります。

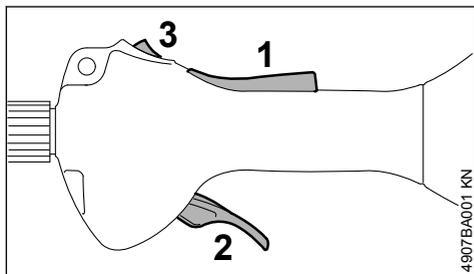
14.1 肩掛けベルト



- ▶ 肩掛けベルト (1) を肩に掛けます。
- ▶ ベルトの長さを調整します。
- ▶ パワーツールを取り付けた状態で、カラビナ (2) がユーザーの右腰とほぼ同じ高さになるようにする必要があります。

15 エンジンの始動と停止

15.1 操作部

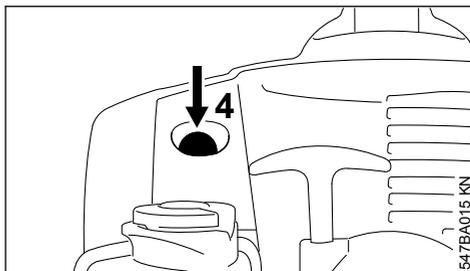


- 1 スロットトリガーロックアウト
- 2 スロットトリガー
- 3 通常運転および 0 = 停止位置の停止スイッチ。

15.1.1 停止スイッチとイグニッションシステムの機能

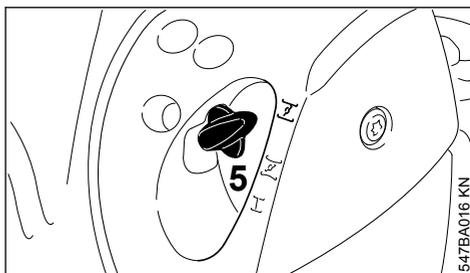
停止スイッチは、押されていない場合は通常、運転位置にあります。イグニッションはオンです - エンジンは始動準備ができています。停止スイッチを 0 の位置に押し、イグニッションスイッチはオフになります。エンジンが停止した後、イグニッションは自動的に再びオンになります。

15.2 エンジンの始動



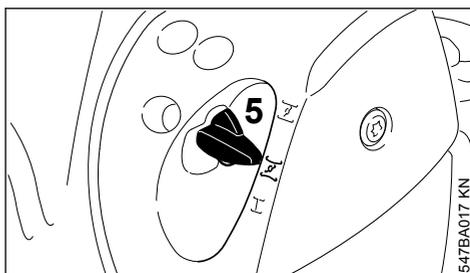
- ▶ 手動燃料ポンプ (4) を最低 5 回押ししてください - ポンプに燃料が充填されている場合でも、同様の操作を行います。

15.2.1 冷機エンジン (冷機スタート)



- ▶ チョークノブ (5) を押し込みながら、Ⅰ の方向に回します。

15.2.2 暖機エンジン (暖機スタート)

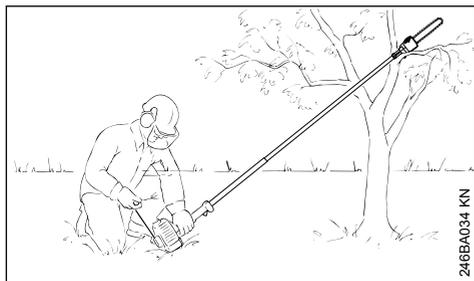


- ▶ チョークノブ (5) を押し込みながら、Ⅱ の方向に回します。

エンジン始動後、完全に暖機されていない場合もこの位置を使用します。

15.2.3 始動操作

- ▶ チェンガードを取り外します。



- ▶ 本機を地面に置きます。エンジンサポートとフックを地面にしっかりと置きます。必要に応じて、フックを盛り上がったところ (盛り土や枝など) に置いて支えます。チェンが他の物体や地面に接触しないことを確認します。

警告

高枝カッターの作業範囲に第三者がいないことを確認してください。

- ▶ 安全と安定した足場に配慮してください。
- ▶ 機械を左手で地面にしっかりと固定して、押し付けます - スロットルトリガーやスロットルトリガーロックアウトに触れないようにしてください。

注記

シャフトの上に立ったり、膝を付いたりしないでください。

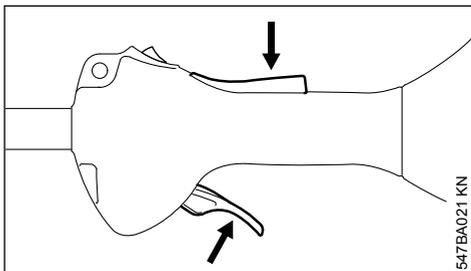
- ▶ 右手でスターターグリップを握ります。
- ▶ スターターグリップをしっかりと引きます。

注記

スターターロープは最後まで引き出さないでください - 切れるおそれがあります。

- ▶ スターターグリップを急に放さないでください。手を添えてハウジング内にゆっくりと戻すと、スターターロープは適切に巻き込まれます。
- ▶ エンジンがかかるまで始動操作を続けます。

15.2.4 エンジンがかかったらすぐに



- ▶ スロットルトリガーロックアウトを押し下げて、スロットルを開きます - チョークノブが運転位置 I に移動します。冷機スタートの後では、スロットルを数回開いてエンジンを暖めます。

警告

キャブレターが適正に調整されていることを確認します。エンジンのアイドリング回転時に、ソーチェンが動かないようにしてください。

これで機械の使用準備が完了しました。

15.3 エンジンの停止

- ▶ 停止スイッチを 0 の方向に移動します - エンジンが停止します - 停止スイッチを放します - 停止スイッチが通常運転位置に自動的に戻ります。

15.4 始動に関するその他の注意事項

エンジンが冷機スタート位置 I または加速状態でストールする。

- ▶ チョークノブを II に移動して、エンジンがかかるまで始動操作を繰り返します。

エンジンが暖機スタート位置 II でかからない

- ▶ チョークノブを I に移動し、エンジンがかかるまで始動操作を繰り返します。

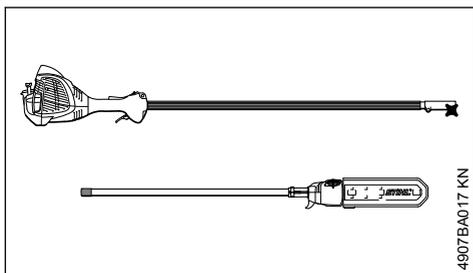
エンジンがかからない場合

- ▶ すべての設定が正しいか確認します。
- ▶ 燃料タンク内に燃料があるか確認し、必要に応じて給油します。
- ▶ スパークプラグターミナルが適正に接続されているか確認します。
- ▶ 始動手順を繰り返します。

燃料タンクが完全に空になった場合

- ▶ 再給油後、手動燃料ポンプにすでに燃料が充填されている場合でも、燃料ポンプを最低 5 回押してください。
- ▶ チョークノブをエンジン温度に合った位置に合わせます。
- ▶ エンジンを再始動します。

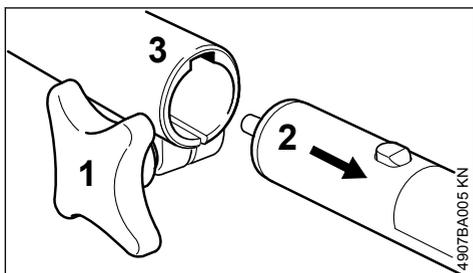
16 機械の運搬



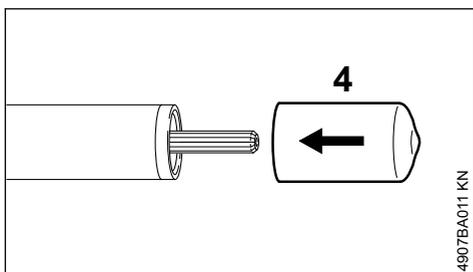
この機械の特徴として、ドライブチューブが分割でき、運搬時のスペースを抑えられます。

16.1 ドライブチューブの取り外し

- ▶ 肩掛けベルトを吊り下げ用リングから取り外します。
- ▶ 機械を地面に置きます：



- ▶ スターノブ (1) を緩めます - 取り外さないようご注意ください。
- ▶ ドライブチューブ (2) をカップリングスリーブ (3) から引き抜きます。



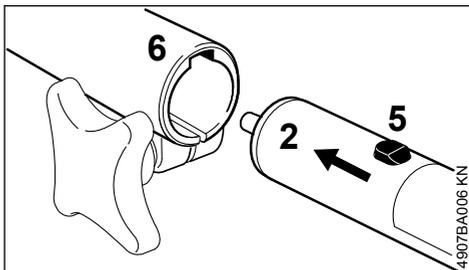
- ▶ キャップ (4) をドライブチューブの先端に取り付けます。

注記

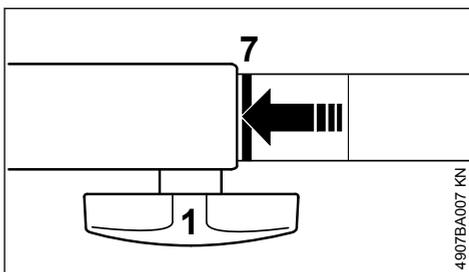
ドライブチューブの端が清潔であることを確認してください。

16.2 ドライブチューブの接続

- ▶ ドライブチューブに取り付けられたキャップを取り外し、安全な場所に保管してください。
- ▶ パワーヘッドを、エンジンサポートの上に載っているように、地面に置きます。
- ▶ ドライブチューブの端が汚れていないかを確認し、必要に応じて清掃してください。



- ▶ フロントドライブチューブ (2) のラグ (5) を、カップリングスリーブのスロット (6) にスライドさせて止まるまで押し込みます - 必要に応じて、フロントドライブチューブ (2) を左右に回転させながら押し込んでください。



適切に取り付けると、赤線 (7) (矢印で示した部分) がカップリングスリーブの端とぴったり重なります。

- ▶ スターノブ (1) をしっかり締め付けます。
- ▶ 吊り下げ用リングにハーネスを取り付けます。

17 作業中の注意事項

17.1 ならし運転中

新品の機械は、最初の燃料 3 タンク分の間は、高速回転 (無負荷でフルスロットル) で運転しないでください。これでならし運転中の不要な高負荷を避けます。すべての動く部品は、ならし運転中になじんでくるので、この期間はエンジンの摩

擦抵抗が大きくなっています。エンジンの最高出力を発揮できるのは、タンク 5~15 回分の使用後となります。

17.2 作業中

注記

出力を増そうとして混合比を薄くしてはいけません - エンジンを損傷することがあります - 「キャブレターの調整」の項を参照してください。

17.2.1 チェンの張りを時々点検してください!

新品のチェンは、しばらく使用したもののよりも頻繁に張りを調整する必要があります。

17.2.2 チェンが冷えている場合

チェンがバーの下部に軽く触れ、かつ手で回せるくらいが正しい張り方です。必要に応じて、チェンの張りを再調整します - 「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

17.2.3 作業温度のチェン

チェンが伸びてきます。ドライブリンクがバーの溝から出てはいけません。チェンがバーから飛び出すことがあります。チェンの張りを再調整します - 「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

注記

チェンは冷えると縮みます。チェンを緩めないと、ギヤーシャフトとベアリングが損傷することがあります。

17.2.4 長時間のフルスロットル運転後

しばらくの間アイドルリングして、エンジンの熱を冷却風で放熱してください。組み込まれている部品（イグニッションやキャブレター）を熱から守るためです。

17.3 作業後

- ▶ 作業中に暖まったチェンの張りを調整した場合、作業終了後にチェンを緩めてください。

注記

作業が終了したら、チェンは必ず緩めてください。チェンは冷えると縮みます。チェンを緩めないと、ギヤーシャフトとベアリングが損傷することがあります。

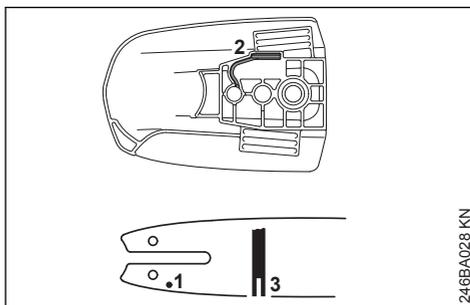
17.3.1 短期間使用しない場合:

チェン鞘を取り付けて、エンジンが冷えるまで待ちます。凝結を避けるために、燃料を充填した状態で、次の使用時まで乾燥した場所で保管します。発火源の近くに置かないでください。

17.3.2 長期間使用しない場合:

「機械の保管」の項を参照してください。

18 ガイド バーの保守



- ▶ チェンの目立てや交換を行うたびにガイドバーを裏返しにします。それにより、片側（特にバーのスプロケットノーズや下側）のみの摩擦を防ぐことができます。
- ▶ オイル供給穴 (1)、オイル流路 (2)、バーの溝 (3) は定期的に清掃してください。
- ▶ 切断に最も使用するガイドバー部分の溝の深さをファイリングゲージ（特殊アクセサリ）の目盛で測定します。

チェンの種類	チェンのピッチ	溝の最低深さ
Picco(ピコ)	1/4" P	4.0 mm (0.16 in)

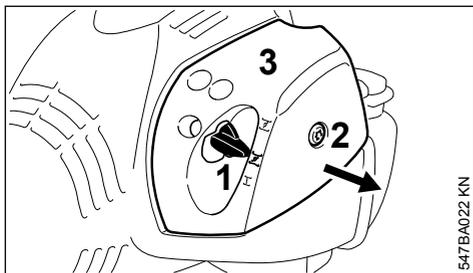
溝の深さが規定値よりも浅い場合:

- ▶ ガイドバーを交換します。

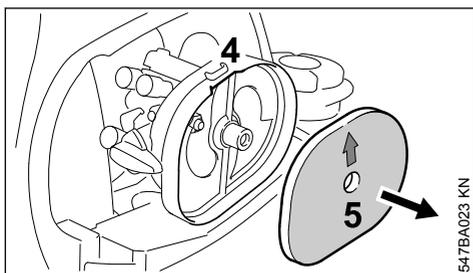
交換しないと、ドライブリンクタンクが溝の底部を擦るようになり、カッターとタイストラップがバーレールに載らなくなります。

19 エアフィルターの掃除

19.1 エンジンの出力が著しく低下した場合



- ▶ チョークレバー (1) を $\overleftarrow{\quad}$ に動かします。
- ▶ フィルターカバー (3) のスクリュー (2) をカバークレバーが緩むまで反時計回りに回します。
- ▶ フィルターカバー (3) を取り外します。
- ▶ フィルターの周りに付着した汚れを取り除きます。



- ▶ フィルターハウジングの溝 (4) からフェルトフィルター (5) を取り外します。
- ▶ 新しいフェルトフィルターエレメント (5) を取り付けます。補助的な方法として、手の平で叩くか、エアで汚れを吹き飛ばします。洗わないでください。

注記

必要な場合は交換してください。

- ▶ フェルトフィルター (5) をフィルターハウジングに、溝方向への矢印を目印に正しく取り付けます。
- ▶ チョークレバー (1) を $\overleftarrow{\quad}$ に動かします。
- ▶ 四角形のスクリューのみを使用して、フィルターカバーを所定に取り付けます。スクリューを締め付けます。

20 キャブレターの調整

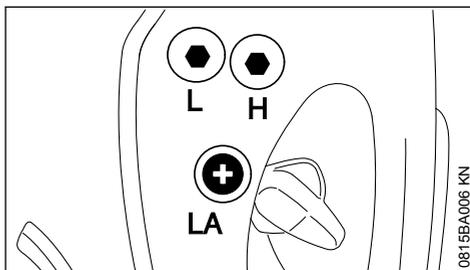
キャブレターは工場出荷時に標準設定されています。

この機械では、キャブレターを調整する必要がありません。

どのような場所および運転状況でも混合燃料がエンジンに最適に供給されるように、工場出荷時に設定されています。

20.1 アイドリング回転の調整。

アイドリング回転中にエンジンが停止する。



- ▶ エンジンを約 3 分間暖めます。
- ▶ アイドリングスピード調整スクリュー (LA) をエンジンが滑らかに動作するまで時計方向にゆっくりと回します - ソーチェンは回転してはいけません。

アイドリング回転中にチェンも一緒に回転する場合は

- ▶ アイドリングスピード調整スクリュー (LA) をチェンが停止するまで反時計方向に回した後、さらに 1/2 ~ 3/4 回転同方向に回します。



警告

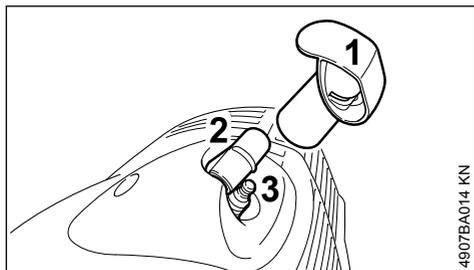
エンジンのアイドリング回転時にソーチェンが回転し続ける場合、スチール サービス店に点検と修理を依頼してください。

21 スパークプラグ

- ▶ エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドリングが不安定になったら、先ずスパークプラグを点検してください。
- ▶ 約 100 時間運転後には新品のスパークプラグと交換してください - 電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパークプラグのみをご使用ください - 「技術仕様」の項を参照してください。

21.1 スパークプラグの取り外し

- ▶ エンジンを切ります。



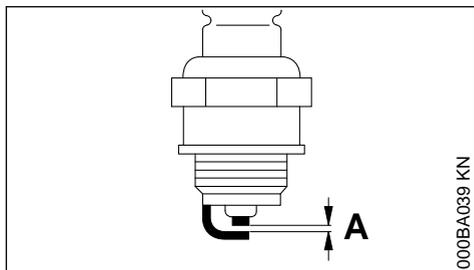
スパークプラグターミナル (2) はキャップ (1) に覆われています。

警告

キャップ (1) は、スパークプラグターミナルの損傷を防いでいます。キャップが付いていないときは、機械を運転しないでください - 損傷したキャップは交換してください。

- ▶ キャップ (1) を取り外します。
- ▶ スパークプラグターミナル (2) を引き抜きます。
- ▶ スパークプラグ (3) が冷えるまで待ちます。
- ▶ スパークプラグ (3) を取り外します。

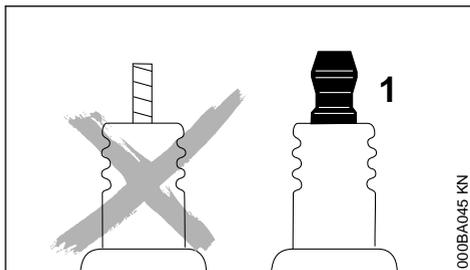
21.2 スパークプラグの点検



- ▶ 汚れたスパークプラグをきれいにします。
- ▶ 電極ギャップ(A)を点検して、必要な場合は調整します - 数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- ▶ 以下のような、スパークプラグが汚れる原因を排除してください。

原因：

- エンジンオイル混合量の過多
- エアフィルター汚れ
- 劣悪な使用環境



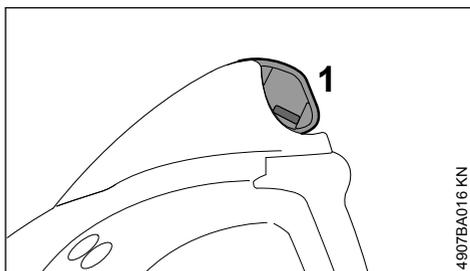
警告

アダプターナット (1) が緩んでいるか、外れている場合はアークが発生することがあります。発火または爆発が起きやすい環境下で作業を行うと、実際の火災または爆発が発生する恐れがあります。この場合、作業員が重傷を負ったり、建物に損傷を与えたりする可能性があります。

- ▶ 抵抗入タイプのスパークプラグを使用し、アダプターナットをしっかりと締め付けてください。

21.3 スパークプラグの取り付け

- ▶ スパークプラグをシリンダーにねじ込みます。
- ▶ ターミナルをしっかりとスパークプラグに押し込みます。



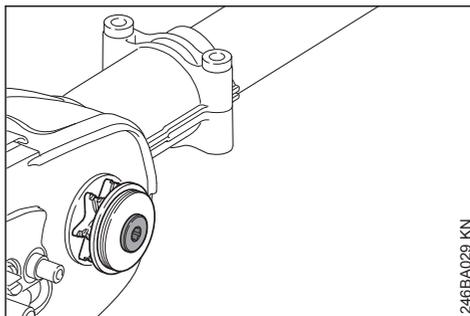
- ▶ キャップ (1) をスパークプラグターミナルに止まるまで押し込みます。

22 機械の保管

約 30 日以上保管時

- ▶ 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します。
- ▶ 燃料は、地域の環境規制に従って処分してください。
- ▶ 手動燃料ポンプが装着されている場合は、手動燃料ポンプを 5 回以上押します。
- ▶ エンジンを始動し、停止するまでアイドリングさせます

- ▶ ソーチェンとガイドバーを取り外し、清掃して保護オイルを吹き付けます。装着されているカッティングアタッチメントには必ずチェンガードを取り付けてください。
- ▶ シャフトを分解して機械を保管する場合は、カップリングに汚れが侵入しないようシャフトに保護キャップを被せてください。
- ▶ 機械（特にシリンダーフィンとエアフィルタ）を入念に掃除します。
- ▶ 生分解チェン オイル (STIHL BioPlus(バイオプラス)等) 使用時は、オイルタンクをオイルで満たします
- ▶ 機械を乾いた安全な場所に保管します。子供や他の無断使用者の手の届かない場所に保管してください。



246BA029 KN

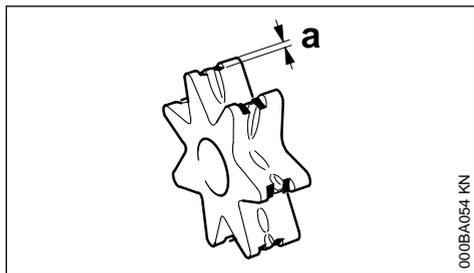
チェンスプロケットは、フリクションクラッチによって駆動されます。チェンスプロケットの交換は STIHL サービス店に依頼してください。

STIHL 社では、整備や修理を STIHL 認定サービス店だけに依頼されることをお勧めします。

23 チェンスプロケットの点検と交換

- ▶ チェンスプロケットカバー、ソーチェン、ガイドバーを取り外します。

23.1 チェンスプロケットの交換



000BA054 KN

- ソーチェン 2 本の使用後またはそれ以前に交換してください。あるいは
- スプロケット上の摩耗マーク (a) が約 0.5 mm (0.02 in) を超えた時点で、チェンの寿命が短くなるため、交換します。ゲージ (特殊アクセサリ) を使用して、摩耗マークの深さを点検します。

2 本のソーチェンを交互に使用すると、チェンスプロケットの寿命が延びます。

STIHL 社では STIHL 純正チェンスプロケットの使用をお勧めしています。

24 ソーチェンの整備と目立て

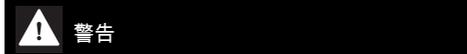
24.1 正しく目立てされたチェンで無駄な切断労力の削減

正しく目立てされたチェンを使うと簡単に木材を切ることができ、また加える力も少なく済みます。

切れ味の悪いチェンや傷んでいるチェンで作業しないでください。身体に大きな負担がかかり、切断状態も十分でなく、刃の摩耗が早いからです。

- ▶ チェンの汚れを取り除きます。
- ▶ チェンにひびが入っていないか、リベットが破損していないか調べます。
- ▶ チェンに損傷や磨耗を発見したら、今までの部品とサイズや形状が同じ新しい部品と交換します。

超硬チップ付きソーチェン (デュロ) は、特に耐摩耗性が強くなっています。当社では、チェンの目立てをスチール サービス店に依頼されることをお勧めします。

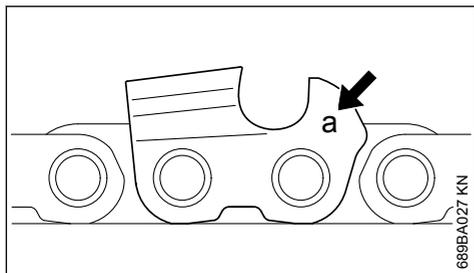


警告

以下に指定した角度と寸法に適合していることが絶対に重要です。テプスゲージが低すぎるなどソーチェンが間違っ目立てされると、キックバックの危険度が増して、**怪我をする危険があります。**

ソーチェンを、ガイドバー上で固定することはできません。そのため、チェンをガイドバーから外し、スタンド型目立機 (FG 2、HOS、USG) で目立してください。

24.2 チェンのピッチ



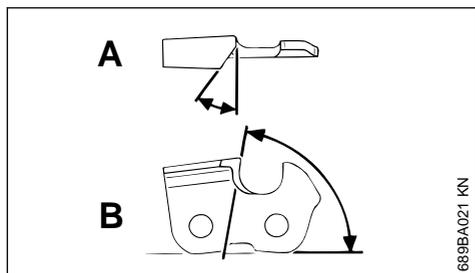
ピッチサイズ (a) は、すべてのカッターのデプスゲージ部分に刻印されています。

マーキング (a)	チェンのピッチ インチ	mm
7	1/4 P	6.35
1 または 1/4	1/4	6.35
6、P または PM	3/8 P	9.32
2 または 325	0.325	8.25
3 または 3/8	3/8	9.32

ヤスリ径は、ピッチに合わせて選んでください。「目立工具」の表を参照してください。

目立ての際は、カッター角度を保持してください。

24.3 上刃・横刃目立て角度



A 上刃目立角

スチールソーチェンは、上刃目立て角度 30 度まで目立てします。リッピングチェンは例外で、上刃目立て角度は 10 度です。リッピングチェンは名称に X が含まれます。

B 横刃目立て角度

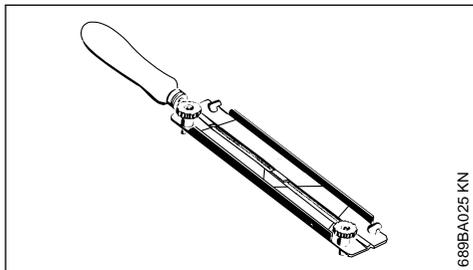
正しい横刃目立て角度は、所定のファイルホルダーとヤスリ径を使用すると、自動的に得られます。

カッターの形状	角度(°)	
	A	B
マイクロ = セミ チゼル カッター、 63 PM3、26 RM3、71 PM3 など	30	75

スーパー = チゼル カッター、 63 PS3、26 RS、36 RS3 など	30	60
リッピング チェン、63 PMX、 36 RMX など	10	75

すべてのカッターの角度を同じにしてください。もし角度が不揃いになるとチェンの回転はガタついて、まっすぐに回りません。磨耗が速くなり、ついには破損します。

24.4 ファイルホルダー

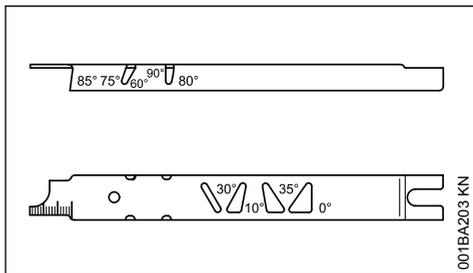


▶ ファイルホルダーの使用

ソーチェンを手作業で目立てするには、必ずファイルホルダーを使用してください（「目立工具」の表を参照）。正しいヤスリ角度はファイルホルダーに刻印されています。

専用のチェンソーヤスリだけを使用してください。他のヤスリでは、形や削れ方が合いません。

24.5 角度の点検用工具

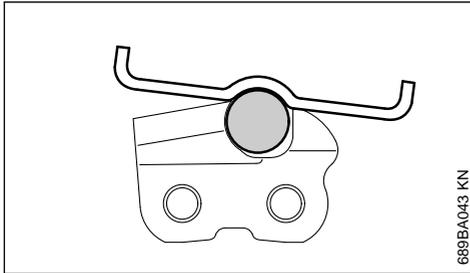
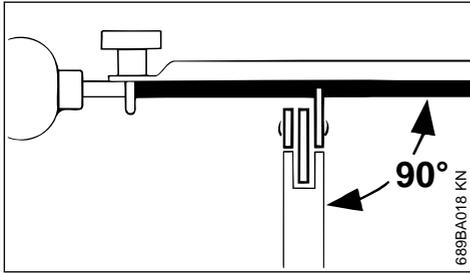


スチールファイリングゲージ(特殊アクセサリ、「目立工具」の表を参照)を使用してください。上刃・横刃目立角度、デプスゲージのセッティング、カッターの長さ、溝の深さが点検できる便利な汎用ゲージです。ガイドバーの溝とオイル孔の掃除にも使えます。

24.6 正しい目立ての仕方

- ▶ チェンピッチに合った目立て工具を選んでください。
- ▶ FG 2、HOS および USG を使用する場合: チェンをバーから外し、工具に付いている取扱説明書に従って目立てします。

- ▶ 必要なら、バーを万力に挟んでください。
- ▶ 目立を頻繁に行い、ほんのわずか刃先を擦ります - 通常目立てではヤスリを2~3回当てることで十分です。



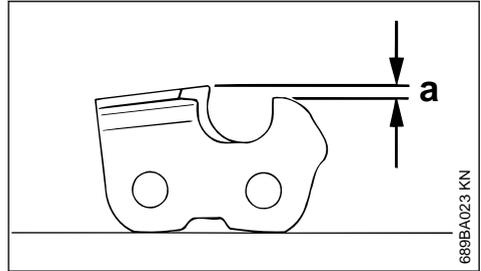
- ▶ ヤスリは水平 (ガイドバー側面に対して直角) に握り、ファイルホルダーに刻印された角度で目立てします。ファイルホルダーをトッププレートとデプスゲージの肩に載せます。
- ▶ 常にカッターの内側から外側に向かってヤスリをかけます。
- ▶ ヤスリは前方ストロークのみで目立てをします - 後方ストロークのときはヤスリをカッターから少し離してください。
- ▶ ヤスリが、タイストラップやドライブリンクに、接触しないようにしてください。
- ▶ 片側が摩擦しないように、ヤスリは一定の時間ごとに回して使用してください。
- ▶ 硬木の小片でエッジのバリを取り除いてください。
- ▶ ファイリングゲージで角度を点検してください。

すべてのカッターの長さを同じにしてください。

長さが異なると、刃の高さが揃いません。もし不揃いになると、チェーンの回転がガタ付いて損傷することがあります。

- ▶ 一番短いカッターを見つけ、そのカッターに合わせて、他のカッターの長さを全て同じにします。サービス店の電動グラインダーで目立てすることをお勧めします。

24.7 デプスゲージの設定



デプスゲージによって、カッターが木に食い込む深さ、つまり削り取られる木の厚さが決まります。

a デプスゲージとカッター先端との設定間隔。

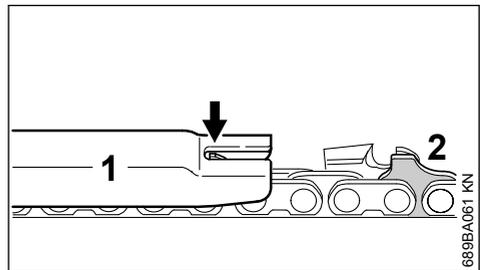
この設定は、穏やかな季節すなわち霜がないときに軟らかい木を切断する場合は、0.2 mm (0.008") 増やすことができます。

チェーンのピッチ		デプスゲージ 設定値 (a)	
インチ	(mm)	mm	(インチ)
1/4 P	(6.35)	0.45	(0.018)
1/4	(6.35)	0.65	(0.026)
3/8 P	(9.32)	0.65	(0.026)
0.325	(8.25)	0.65	(0.026)
3/8	(9.32)	0.65	(0.026)

24.8 デプスゲージを低くする

チェーンの目立てを行うと、デプスゲージ量が小さくなります。

- ▶ チェーンの目立てを行うたびに、ファイリングゲージでデプスの高さを点検します。



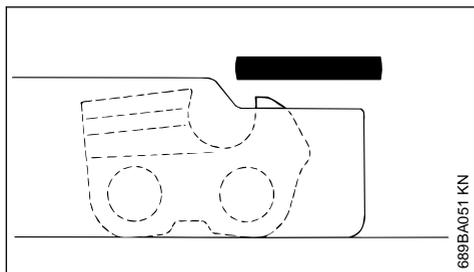
- ▶ チェーンのピッチに合ったファイリングゲージ (1) をソーチェンに載せ、カッターに押しつけます - デプスゲージがファイリングゲージから出ている場合は、デプスゲージを低くします。

セーフティドライブリンクが付いたソーチェン (2) - セーフティドライブリンクの上部 (2) (サービスマーキング付き) はデプスゲージと一緒に下がります。

**警告**

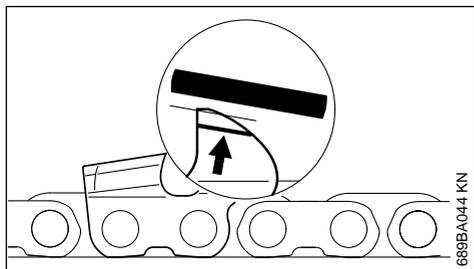
セーフティドライブリンクの他の部分をヤスリで削ってはいけません。パワーツールがキックバックを起こす危険が高まります。

- ▶ 目立てが終了したら、チェーンをよく洗浄し、ヤスリやグラインダーの切削粉を取り除いて、チェーンに十分に潤滑油を塗布してください。
- ▶ 長時間使用しない場合は、チェーンをきれいに洗浄し、潤滑油を塗布して保管してください。



689BA051 KN

- ▶ デプスゲージは、ファイリングゲージと同じ高さになるように仕上げてください。

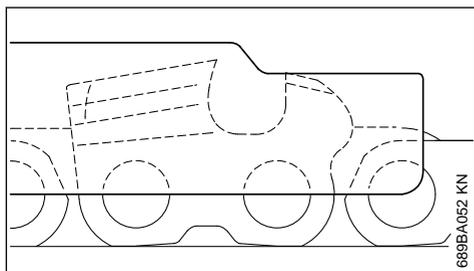


689BA044 KN

- ▶ その後、デプスゲージの肩をサービスマーキング (矢印を参照) と平行になるように削ります - その際デプスゲージの最も高い位置が、後方にずれないように注意してください。

**警告**

デプスゲージが低すぎると、機械がキックバックを起こしやすくなります。



689BA052 KN

- ▶ ファイリングゲージをソーチェーンに載せます - デプスゲージの最も高い位置がファイリングゲージと一致しなければなりません。

目立工具 (特殊アクセサリ)								
チェンのピッチ		丸ヤスリφ		丸ヤスリ	ファイルホルダー	ファイリングゲージ	平ヤスリ	目立キット ¹⁾
インチ	(mm)	mm	(インチ)	部品番号	部品番号	部品番号	部品番号	部品番号
1/4 P	(6.35)	3.2	(1/8)	5605 771 3206	5605 750 4300	0000 893 4005	0814 252 3356	5605 007 1000
1/4	(6.35)	4.0	(5/32)	5605 772	40065605 750	43271110 893	40000814 252	33565605 007 1027
3/8 P	(9.32)	4.0	(5/32)	5605 772 4006	5605 750 4327	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1027
0.325	(8.25)	4.8	(3/16)	5605 772 4806	5605 750 4328	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1028
3/8	(9.32)	5.2	(13/64)	5605 772 5206	5605 750 4329	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1029

¹⁾丸ヤスリ、平ヤスリ、ファイリングゲージ付きファイルホルダーで構成

25 整備表

以下の整備間隔は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が通常よりも長い場合、あるいは作業条件が悪い場合(非常にほこりの多い場所、樹脂分の多い樹木、熱帯樹など)は、それに応じて、表示された間隔よりも短くしてください。パワーツールを時々しか使用しない場合は、整備間隔を表に示された間隔よりも長くしてください。		高 速 回 転 作 業 件 件	日 毎 に た た か い 作 業 終 了 後	並 常 回 転 作 業	週 毎	月 毎	12 カ 月 毎	故 障 時	損 傷 時	台 必要 な 場 合
機械本体	目視検査(状態と漏れ)	X		X						
	清掃		X							
コントロールハンドル	作動点検	X		X						
エアフィルター	清掃							X		X
	交換								X	
手動燃料ポンプ(装着されている場合)	点検	X								
	修理はサービス店に依頼してください ¹⁾								X	
燃料タンク内のピックアップポディ(フィルター)	点検							X		
	交換						X		X	X
燃料タンク	清掃							X		X
キャブレター	アイドリング調整の確認 - チェンが回転しないこと	X		X						
	アイドリング再調整									X
スパークプラグ	電極ギャップの再調整							X		
	100 運転時間毎に交換									
冷却風吸入部	目視検査		X							
	清掃									X
すべての手の届くスクリユーとナット(調整スクリユーを除く)	締め直し									X
チェンの潤滑	点検	X								
チェンオイルタンク	清掃							X		X
ソーチェン	点検および切れ具合を点検	X		X						

以下の整備間隔は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が通常よりも長い場合、あるいは作業条件が悪い場合(非常にほこりの多い場所、樹脂分の多い樹木、熱帯樹など)は、それに応じて、表示された間隔よりも短くしてください。パワーツールを時々しか使用しない場合は、整備間隔を表に示された間隔よりも長くしてください。		高負荷作業	日毎または作業終了後	毎週	毎月	12ヶ月毎	故障時	修理時	必要な場合
	チェーンの張りを点検	X		X					
	目立て								X
ガイドバー	点検 (摩耗、損傷)	X							
	清掃し、ガイドバーを裏返しにする								X
	バリ取り				X				
	交換							X	X
チェンスプロケット	点検				X				
	交換 ¹⁾								X
安全ラベル	交換							X	

¹⁾STIHL 社では、STIHL サービス店の利用をお勧めしています。

26 磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書の記述を遵守して使用すると、機械の過度の磨耗や損傷が回避されます。

本機の使用、整備並びに保管は、本取扱説明書の記述に従って入念に行ってください。

特に以下の場合のように、安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容及び警告事項に従わずに使用したことに起因する全ての損傷については、ユーザーが責任を負います：

- スチールが許可していない製品の改造。
- 当製品への適用が承認されていない、適していない、または低品質のツールやアクセサリーの使用。
- 指定外の目的に当製品を使用。
- スポーツ或いは競技等の催し物に当製品を使用。
- 損傷部品を装備したままで当製品を使用したことから生じる派生的損傷。

26.1 整備作業

「整備表」に列記されている作業は、必ず全て定期的に行ってください。整備作業を使用者が自ら行えない場合は、サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店にのみ依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

上記整備作業を怠ったことが原因で生じた以下のような損傷に対しては、上記の例として、以下の部品が挙げられます：

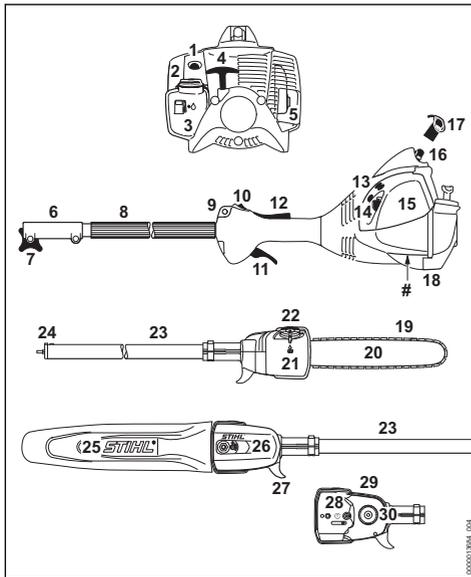
- 指定された時期に実施されなかった整備や不十分な整備(例：エアフィルター、燃料フィルター)、不適切なキャブレターの調整または不十分な冷却空気経路の掃除(エア吸入スリット、シリンダーフィン)が原因で生じたエンジンの損傷。
- 不適切な保管に起因する腐食およびその他の派生的損傷。
- 低品質の交換部品を使用したことによる本機の損傷。

26.2 磨耗部品

カットオフソーの部品によっては、規定通りに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- ソーチェーン、ガイドバー
- 駆動部品(クラッチ、クラッチドラム、チェンスプロケット)
- フィルター(エアフィルター、オイルフィルター、燃料フィルター)
- リワインドスターター
- スパークプラグ
- 防振システムのコンポーネント

27 主要構成部品



- 1 手動燃料ポンプ
- 2 燃料タンクキャップ
- 3 燃料タンク
- 4 スターターグリップ
- 5 マフラー
- 6 カップリングスリーブ
- 7 クランピングスクリュー
- 8 ハンドルホース付きシャフト
- 9 吊り下げ用リング
- 10 停止スイッチ
- 11 スロットルトリガー
- 12 スロットルトリガーロックアウト
- 13 キャブレター調整スクリュー
- 14 チョークレバー
- 15 エアフィルターカバー
- 16 スパークプラグターミナル
- 17 キャップ
- 18 マシンサポート
- 19 オイロマチックソーチェン
- 20 ガイドバー
- 21 オイルタンク
- 22 オイルタンクキャップ
- 23 シャフト

- 24 スリーブ
 - 25 チェンガード
 - 26 チェンスプロケットカバー
 - 27 フック
 - 28 チェンテンショナー
 - 29 ゲージバー
 - 30 チェンスプロケット
- # 機械番号

28 技術仕様

28.1 エンジン

単気筒 2 ストロークエンジン

排気量： 27.2cm³
 シリンダー径： 34 mm
 ピストンストローク： 30 mm
 ISO 8893 に準拠したエンジン出力： 0.8 kW、8500 rpm 時
 ISO 11680 に準拠したアイ 2800 ± 50 rpm
 ドリング回転数：
 回転数制御範囲 (公称値)： 10000 rpm
 シャフト最高回転数 (チェンスプロケット)： 7900 rpm

28.2 イグニッションシステム

エレクトロニクマグネットイグニッション
 スパークプラグ(雑音防 止)： NGK CMR 6 H
 電極ギャップ： 0.5 mm

28.3 燃料システム

燃料ポンプ付き全方向ダイヤフラム式キャブレター

燃料タンク容量： 340 cm³ (0.34 l)

28.4 チェンオイル

全自動、回転数制御ロータリーピストン式オイルポンプ

オイルタンク容量： 120 cm³ (0.12 l)

28.5 重量

燃料なし、カッティングアタッチメントなし
 HT 56 C： 6.4 kg

28.6 カッティングアタッチメント

実際の切断長は、指定された長さよりも短い場合があります。

28.6.1 Rollomatic(ローロマチック) E ミニガイドバー

ブレード長さ： 25、30 cm
 ピッチ： 1/4" P (6.35 mm)

溝幅 : 1.1 mm

28.6.2 ソーチェン 1/4" P

Picco Micro Mini(ピコマイクロミニ)3 (71PM3)

3670 型

ピッチ : 1/4" P (6.35 mm)

ドライブリンクゲージ : 1.1 mm

28.6.3 チェンスプロケット

8 枚歯、1/4" P 用

28.7 騒音・振動数値

振動に関する事業主への指令 2002/44/EC の遵守の詳細については、

www.stihl.com/vib をご覧ください。

28.7.1 ISO 22868 に準拠した音圧レベル L_{peq}

HT 56 C : 91 dB(A)

28.7.2 ISO 22868 に準拠した音響パワーレベル L_{weq}

HT 56 C : 103 dB(A)

28.7.3 ISO 22867 に準拠した振動値 $a_{hv,eq}$

シャフト:

HT 56 C : 5.2 m/s²

コントロールハンドル:

HT 56 C : 4.9 m/s²

指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、音圧レベルおよび音響出力レベルについて 2.0 dB(A) です。指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、振動加速度について 2.0 m/s² です。

28.8 REACH

REACH は EC の規定で、化学物質 (Chemical substances) の登録 (Registration)、評価 (Evaluation)、認可 (Authorisation)、規制を意味します。

REACH 規定 (EC) No.1907/2006 の遵守の詳細については、以下をご覧ください。

www.stihl.com

28.9 排気ガス

EU 型式認定手順で測定された CO₂ 値は、以下に記載されています -

www.stihl.com/co2

(製品ごとの技術データ)。

CO₂ 測定値は、代表的なエンジンを実験室の環境下で標準的な試験手順に従って測定した結果であり、特定のエンジンの性能を明示的、暗示的に保証する数値ではありません。

適用される排気ガス規制の要件は、本書に記載されている方法で機械を使用し、整備することによって満たされます。いかなる方法であれエンジンを改造すると、使用許可は無効になります。

29 整備と修理

本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみ依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

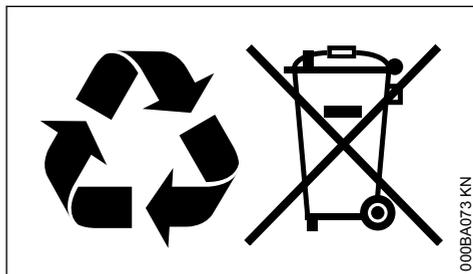
当社ではスチール オリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL** ロゴマークおよびスチール部品シンボルマーク  が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

30 廃棄

廃棄に関する情報については、最寄りの行政機関または STIHL サービス店へお問い合わせください。

不適切な廃棄は、健康被害や環境汚染の原因になるおそれがあります。



- ▶ 現地の規制に従い、パッケージを含む STIHL 製品を適切な回収場所へ持ち込み、リサイクルしてください。
- ▶ 家庭ごみと共に廃棄しないでください。

31 EC 適合証明書

ANDREAS STIHL AG & Co. KG
Badstr. 115

D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において下記の製品が

モデル:	高枝カッター
製造ブランド:	STIHL
タイプ:	HT 56 C
シリアル番号:	4139
排気量:	27.2 cm ³

指令 2011/65/EU、2006/42/EC、2014/30/EU の
関連する条項に適合しており、以下の規格のそれ
ぞれ製造時点で有効であった版に準拠して開発
および製造されたことを保証いたします:

EN ISO 11680-1、EN 55012、EN 61000-6-1

EC 型式検査の実施者

KWF Service GmbH
Spremberger Straße1
64823 Groß-Umstadt
Deutschland

証明書番号

HT 56 C : K-EG 2023/11003

技術文書の保管:

ANDREAS STIHL AG & Co. KG
Produktzulassung

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示され
ています。

2023年6月1日、Waiblingenにて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs
& Global Governmental Relations

CE

32 アドレス

www.stihl.com

www.stihl.com



0458-555-4321-C



0458-555-4321-C